

新潟市生涯歯科保健計画(第5次)の評価

1. 目標達成状況

- 新潟市生涯歯科保健計画(第5次)では評価指標を20項目設定。評価にあたり、当計画期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている可能性も考えられる。
- 目標達成状況については表1のとおり。(各評価指標の状況は表2のとおり)
- 乳幼児期では、評価区分 A(達成)が3項目、B(未達成だが改善傾向)が1項目であった。
- 園児期・学齢期では、A(達成)が6項目、C(変化なし)が1項目であり、むし歯に関する項目において改善が認められた。
- 成人期・高齢期では、A(達成)が4項目、B(未達成だが改善傾向)が2項目、D(悪化傾向)が1項目であった。歯の残存や咀嚼に関する項目等は改善が認められたが、歯周炎に関する項目については、目標未達成であった。
- 障がい(児)者・要介護者については、2項目全て D(悪化傾向)であった。

表1 . 新潟市生涯歯科保健計画(第5次)の目標達成状況 令和6年2月29日現在

評価区分		該当項目数(割合)
A	達成	13 項目(65.0%)
B	目標を達成していないが、改善傾向にある	3 項目(15.0%)
C	変化なし	1 項目 (5.0%)
D	悪化の傾向にある	3 項目(15.0%)
	合計	20 項目(100.0%)

2. 各ライフステージにおける歯科保健の現状と課題

(1) 乳幼児期

- 3歳児でむし歯がある者の割合は減少しているが、多数歯むし歯(4本以上)がある者が一定程度存在する。

【3歳児のむし歯保有状況】

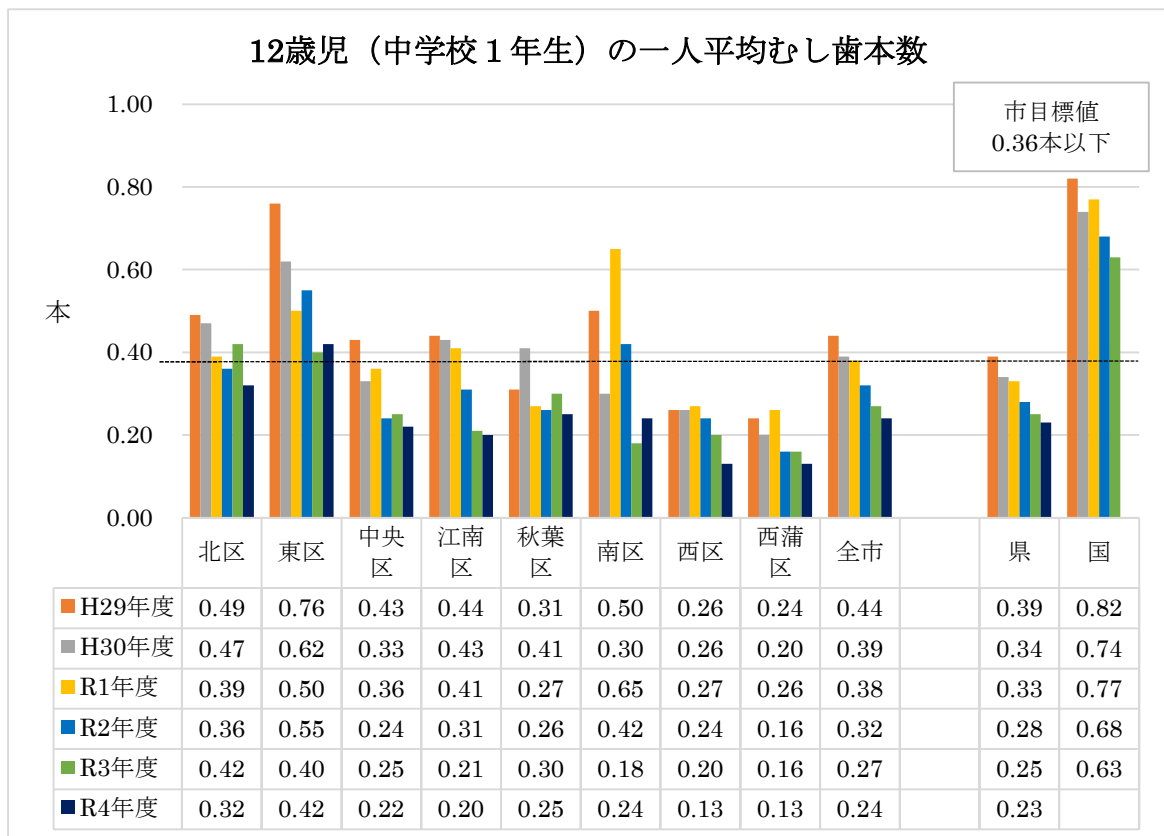
年度	受診数 [人]	むし歯がある者 [人(%)]	(再掲)多数歯むし歯*がある者 [人(%)]
H30	6,080	532 (8.8)	153 (2.5)
R1	5,522	454 (8.2)	129 (2.3)
R2	5,347	430 (8.0)	113 (2.1)
R3	6,248	378 (6.0)	90 (1.4)
R4	5,251	316 (6.0)	69 (1.3)

※4本以上のむし歯

- 甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する3歳児の割合は低下しているが、目標値は達成していない。
- かかりつけ歯科医を持つ3歳児の割合は、目標値を大きく上回った。2歳児歯科健診の歯科医療機関受診がきっかけとなっていると考えられる。
- 乳幼児期の多数歯むし歯は、社会経済的要因が影響すると指摘されており、歯と口に関する健康格差を縮小していくためにも、ライフコースアプローチの入り口である乳幼児期からの取組が大切である。

(2) 園児期・学齢期

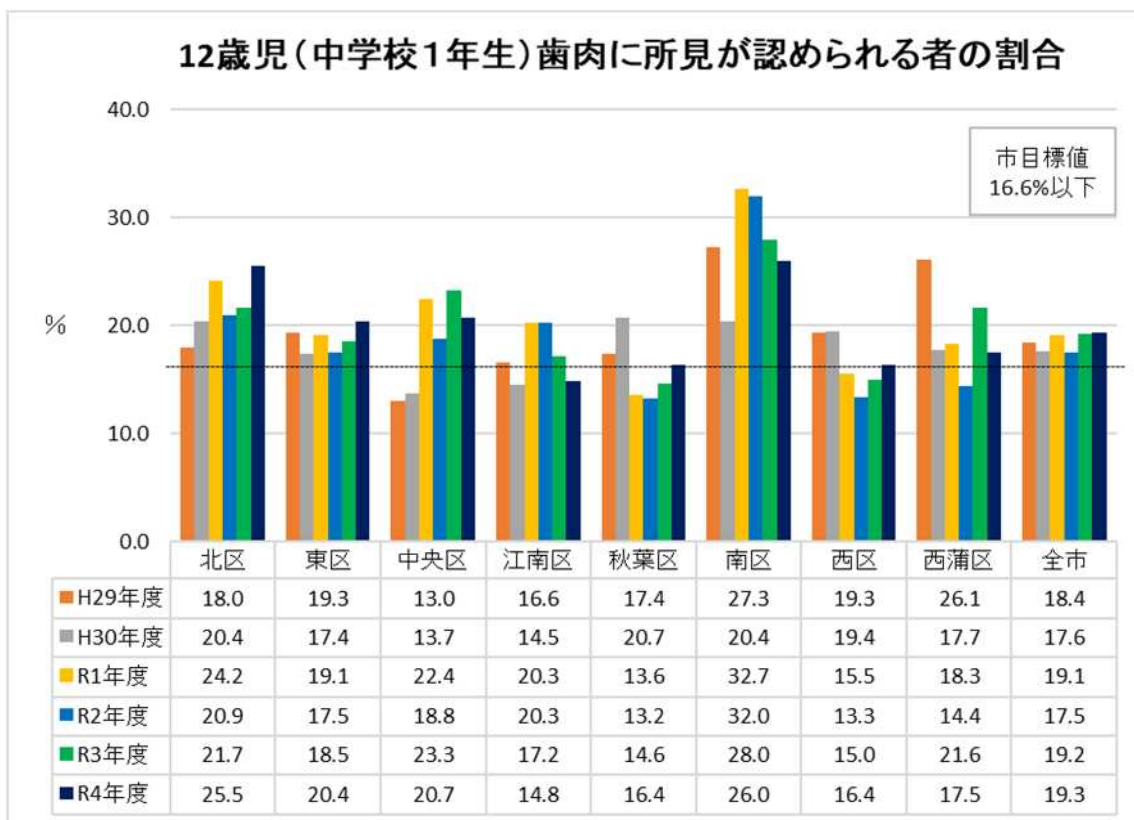
- 6歳児、12歳児ともむし歯がない者の割合は、目標値を達成している。また、12歳児の一人平均むし歯本数、未処置のむし歯がある者の割合についても、目標値を達成している。
- 12歳児一人平均むし歯本数は全市的に減少しているが、区間の差がある。



出典：保健給食課調べ

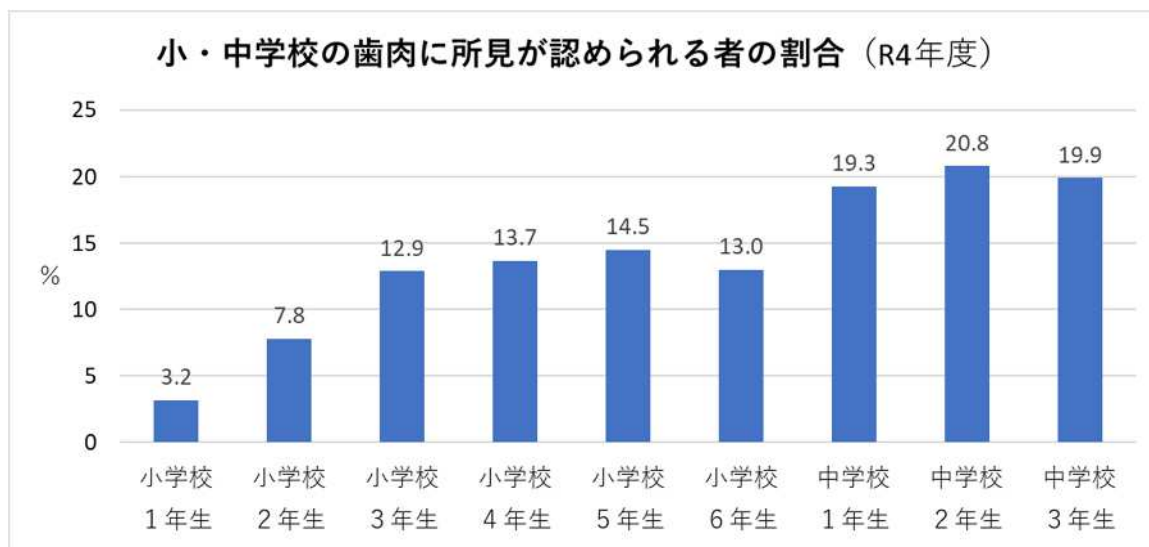
- フッ化物洗口実施施設数の割合は、全体では目標値を達成しているが、こども園、幼稚園では目標値に達していない。

- 12歳児で歯肉に所見が認められる者の割合に変化は見られず、目標値を達成していない。また、区間で差がある。



出典:保健給食課調べ

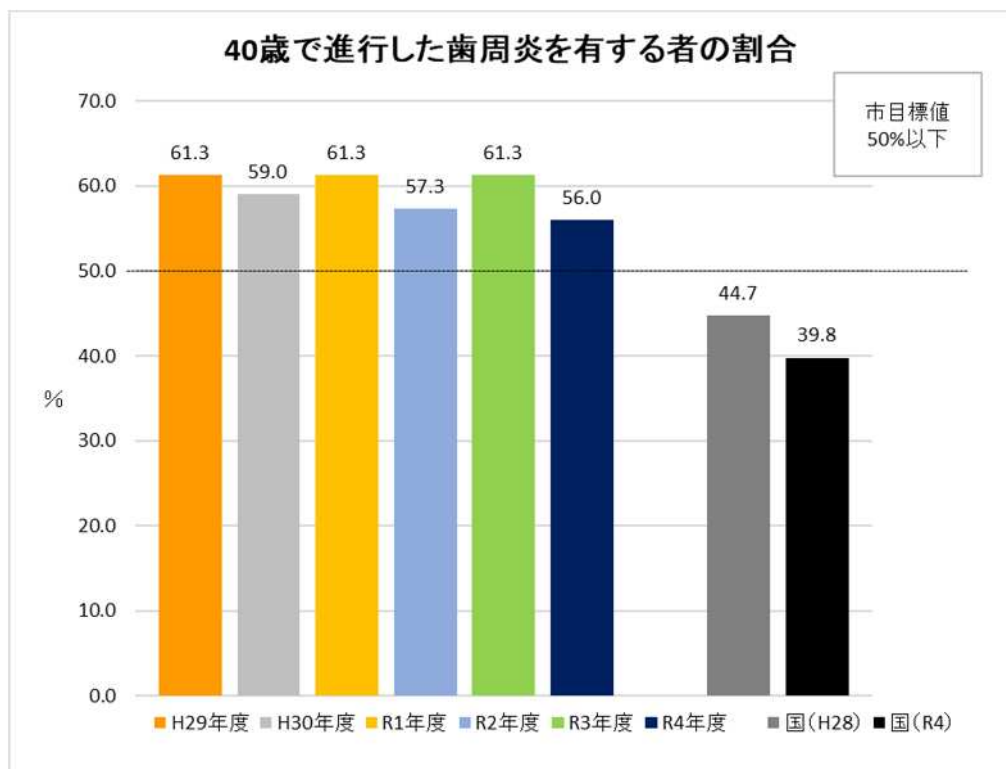
- 小学校中学年以降、歯肉に所見が認められる者の割合は学年が上がるにつれ増加するため、学齢期からの歯周病対策を検討する必要がある。



出典:保健給食課調べ

(3) 成人期・高齢期

- 20歳以上において、過去1年間に歯科健康診査を受診した者の割合は増加しているが、目標は達成していない。学校卒業後、定期的な歯科健診を受ける機会がなくなったためと考えられる。
- 40歳で進行した歯周炎を有する者の割合は、改善傾向にあるが目標を達成しておらず、全国より高い状況にある。職域と連携して、若い世代に向け、歯周病のリスクや予防方法の啓発が必要である。



出典：(市)成人歯科健診事業結果、(国)全国歯科疾患実態調査

- 60歳で24歯以上の割合、80歳で20歯以上の割合は、ともに目標値を達成している。現在歯数の増加に伴い、今後は、歯根面むし歯や歯周病対策が必要である。
- 60歳代における咀嚼良好者の割合は目標値を達成しているが、良好でない者も約2割おり、オーラルフレイル対策が必要である。
- 生涯を通じて、かかりつけ歯科医をもち、定期的な歯科健診やプロフェッショナルケアを推進することが重要であり、歯・口腔の健康の保持増進のため、環境の整備や個人の行動変容を促す取組が必要である。

(4) 障がい者(者)・要介護者

- 訪問歯科診療を実施する歯科医院数は減少しているが、歯科訪問診療件数は、増加傾向にある。高齢化の進展に伴い、要介護者の増加が見込まれる。

【新潟市における歯科訪問診療(診療所)件数】

年度	居宅 実施件数※	施設 実施件数※
H26	567	1,464
H29	665	1,937
R2	703	2,056

出典：医療施設調査(厚生労働省)

※ 当該年9月データ

- 新潟市口腔保健福祉センターでは、障がい(児)者、高齢者等で一般の診療所での診療が困難なものに対し、歯・口腔の診療、指導、相談等を実施し、障がい者歯科診療の拠点として機能している。

表2. 新潟市生涯歯科保健計画(第5次)評価指標及び現状について

令和6年2月29日現在

指標番号	指標/目標値 [目標年度]	ベースライン値 H29年度	R3年度	最新値 R5年度	評価区分	※1 目標値	出典
<乳幼児期>							
1	3歳児でむし歯[乳歯むし歯]がない者の割合	90.2%	94.0%	[R4] 94.0%	A	90%以上	3歳児歯科健診事業結果
2	フッ化物塗布を定期的に受けている3歳児の割合	36.4%	(R3.5月~R4.3月) 48.3%	[R4] 53.2%	A	40%以上	3歳児歯科健診事業結果
3	間食として甘い食品・飲料を1日3回以上飲食する習慣を持つ3歳児の割合	26.1%	15.5%	[R4] 22.1%	B	20%以下	3歳児歯科健診事業結果
4	かかりつけ歯科医を持つ3歳児の割合	45.9%	54.6%	[R4] 64.6%	A	48%以上	母子保健に関する実施状況等調査
<園児期・学齢期>							
5	6歳児[小学校1年生]でむし歯[永久歯のみ]がない者の割合	98.0%	99.0%	[R4] 99.4%	A	98.5%以上	新潟市学校保健統計
6	12歳児[中学校1年生]でむし歯がない者の割合	79.7%	87.0%	[R4] 88.0%	A	82.1%以上	新潟市学校保健統計
7	12歳児[中学校1年生]の一人平均むし歯本数	0.44本	0.27本	[R4] 0.24本	A	0.36本以下	新潟市学校保健統計
8	12歳児[中学校1年生]で歯肉に所見が認められる者の割合	18.4%	19.2%	[R4] 19.3%	C	16.6%以下	新潟市学校保健統計
9	フッ化物洗口実施施設数の割合	79.5% [内訳] 保育園 86.8% こども園 39.1% 幼稚園 64.7%	82.8% [内訳] 保育園 93.7% こども園 69.0% 幼稚園 82.4%	[R4] 83.0% [内訳] 保育園 94.2% こども園 70.6% 幼稚園 78.6%	A	80%以上	保育課調べ 保健給食課調べ
10		小学校 64.8%	小学校 100%	[R4] 小学校 100%	A	小学校 100%	保健給食課調べ
11	12歳児[中学校1年生]で未処置のむし歯がある者の割合	8.2%	4.1%	[R4] 4.3%	A	6.7%以下	新潟市学校保健統計

指標番号	指標/目標値 [目標年度]	ベースライン値 H29年度	R3年度	最新値 R5年度	評価区分	※1 目標値	出典
<成人期・高齢期>							
12	40歳で進行した歯周炎を有する者の割合	61.3%	61.3%	[R4] 56.0%	B	50%以下	成人歯科健診事業結果
13	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合	[H30] 70.2%	78.9%	81.8%	A	80%以上	市民口腔保健調査
14	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合	[H30] 58.6%	56.6%	64.7%	A	60%以上	市民口腔保健調査
15	60歳代における咀嚼く良好者の割合	[H30] 74.2%	[R2] 82.4%	81.8%	A	80%以上	新潟市民の健康づくりに関する調査
16	20歳以上で過去1年間に歯科健康診査を受診した者の割合	[H30] 53.8%	[R2] 58.3%	62.5%	B	65%以上	新潟市民の健康づくりに関する調査
17	20歳以上で歯間部清掃用具を使用している者の割合	[H30] 57.6%	[R2] 59.6%	65.9%	A	65%以上	新潟市民の健康づくりに関する調査
18	運動器の機能向上・栄養改善・口腔機能向上事業の参加者数[人/年]	992人	933人	[R4] 797人	D	※2 1,260人	通所型短期集中予防サービス実績
<障がい[児]者・要介護者>							
19	訪問歯科診療を実施する歯科医院の数	[H29.10] 330/499 医療機関 [66.1%]	[R4.10] 309/503 医療機関 [61.4%]	302/494 医療機関 [61.1%]	D	増加	にいがた医療情報ネット
20	障がい者診療を実施する歯科医院の数	[H28] 72医療機関	[R1] 60医療機関	[R1] 60医療機関	D	増加	市歯科医師会調査

※1 計画期間の延長に伴う目標値の再設定は行わず、R6年度末までの目標値とする。
 ※2 地域包括ケア計画によるR2年度目標値。

評価区分	
A	達成
B	目標を達成していないが、改善傾向にある
C	変化なし(変化率※3 5%未満)
D	悪化の傾向にある

※3 変化率(%) = {(最新値-ベースライン値)/ベースライン値} × 100